

令和2年度 第1回北広島町総合教育会議 会議録

1. 日時： 令和2年12月1日（火） 13:00～13:56

2. 場所： 北広島町役場町長室

3. 出席者： 北広島町長 箕野 博司
北広島町副町長 中原 健
北広島町教育委員会 教育長 池田 庄策
委員 菅川 知由
委員 長田 克司
委員 益田 英樹
委員 甲斐 徳子

(事務局) 総務課長 畑田 正法
総務課総務係長 田村 智行
教育委員会事務局
生涯学習課長 西村 豊
学校教育課長 植田 伸二
学校教育課学校総務係長 国吉 孝治
学校教育課学校指導係長 藤田 一友
学校教育課学校指導係 細田 充裕

4. 欠席者：なし

5. 会議録署名者：甲斐 徳子

6. 協議事項：

GIGA スクール構想について

7. 会議の概要

○開会

○町長あいさつ

○協議事項

GIGA スクール構想について

○閉会

(総務課長)

ただ今から令和2年度第1回総合教育会議を始めます。開会にあたりまして箕野町長からご挨拶を申し上げます。

(町長あいさつ)

みなさんこんにちは。今年は、コロナの関係でなかなか思うように会議等も開催できず、この総合教育会議も第1回目となったわけではありますが、ご理解を承りたいと思います。今日は、『GIGA スクール構想について』、来年度から始まることですので、非常に忙しいスケジュールで今、進めて

います。先生方もいろいろ工夫していただいて、どうにか4月からはスタートがきれるのではないかと
思っております。町では、F T T H化とか、コロナ禍の中で特に、そういったインターネット関係、
リモート関係、非常に需要が多くなったということで、国もデジタル化をどんどん進めて行く方向に
なっています。町もそういうかたちで、町民の暮らしが良くなるようにいろんな方面でも進めてまい
りたいと思っております。それでは、進めていきたいと思っております。

(総務課長)

それでは、議事に入らせていただきます。議録署名者につきましては、甲斐教育委員よろしくお
願いいたします。それでは、進行につきましては、町長が議長を務めることとなっておりますので、
どうぞよろしくお願いいたします。

(町長)

それでは議事に入らせていただきます。『G I G Aスクール構想について』説明をお願いします。

(学校教育課長)

『G I G Aスクール構想について』ということで、資料をお配りしています。北広島町では、今年
度、国の補助を受けてG I G Aスクール構想、児童生徒に1人1台端末ということで、事業を進めて
おります。現状では、9月15日に契約を済ませ、NECフィールドディングという会社で契約をし、
事業を進めています。現状、第一期工事ということで、各学校に入り、校内のLAN工事、LANケー
ブルを工事しています。あと、HABの設置ということで、第一期工事を11月、12月と、行って
います。この『G I G Aスクール構想について』資料に基づいて、指導主事から説明申し上げ、町長
部局、教育委員会事務局の意見共有を図ってまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

(細田指導主事)

学校教育課指導主事細田でございます。お手元の『G I G Aスクール構想について』という横長の
資料の方をご覧ください。こちらの資料ですが、町の補助金集会、教頭研修会でも説明に使わせていた
だいた資料です。そちらで、現在進んでいるところの説明をします。先程、植田課長からもありまし
たが、事業主体としては、NECフィールドディングというところが主体になりながら、5年間のリース
契約を結んで、端末を整備をしていくことになっております。実際の運用開始は、4月1日からになり
ます。次です。パソコンが載っている紙面をご覧ください。そちらに写真が載っておりますが、その
ような端末が児童生徒1人に1台ずつ整備をされる予定です。11.6型なので、少し小さめです。

「教育クラウド用端末」というところを囲んでおります。右側の「注」ですけれども、Wi-Fi環境
が必須になってきます。インターネットに繋がることで、いろんなアプリケーションが稼働をして行
くことになっていきます。我々が今、仕事で使っております、「Windows」とかは、パソコンの
箱の中に「Word」、「Excel」などシステムのソフトが全部保存されていて、そこで作動して
行きます。今回使う、教科用クラウド用端末、北広島町で用意するものは、そういったシステムも全
部インターネットを繋いだ先に準備されております。インターネットに繋がることで、そういったア
プリケーションも全て作動する仕組みになっていきます。ですので、データの保存もパソコン自体に行
うのではなく、インターネットを繋いだ先の、クラウドのサーバー中で行うことになりますので、端
末に対する負荷は非常にかからなくなっています。立ちあげも、非常に早く立ち上がります。電源を
入れた次の瞬間から、利用することが可能になっていきます。子どもが使うものですが、机から
の落下、屋外での授業でもある程度使用に耐えうる堅牢なもので評価を受けていると聞いています。

「Windows」というOSではなく、Google社が提供している、「Android」をベ
ースにしたOSを使って行くことになります。これを使うのに、Googleが今、教育現場に無料

で提供している、「Google for Education」を使います。これが、いわゆる、「Microsoft Windows」の「Word」といわれるもの、文章作成ソフトが「ドキュメント」という言い方になります。「Excel」に変わるものが「スプレッドシート」。プレゼンテーション資料を作る「Powerpoint」といわれるものが、「スライド」という言い方になってきます。これらは、「Word」、「Excel」、「Powerpoint」といくつかの互換性を持たせたものであると聞いております。それから集計アプリ、アンケートホームを作って、子ども達、保護者にアンケートを取って行くということがあります。学校で様々なアンケートを取って、それを手入力で「Excel」に落とし、データに作成することがあります。これを使うことで保護者がインターネットで回答されると、全てクラウドの中でExcelシートまで全て落とし、グラフも自動に作成ができることを考えますと、業務の効率化にも繋がってくると思います。それから、データを保管するところを「ドライブ」という言い方になってきます。今、「Zoom」、「Webex」とかいろんなビデオ会議システムがあります。このGoogleの中にも「Meet」というアプリケーションがあり、これを使ってビデオ対話をして行くことができます。今のようなアプリケーションの部分が『協働学習の促進』と書いてありますけども、「G Suite For Education」というパッケージになります。下に書いてある、『学習管理の効率化』ということで「Google Classroom」を書いています、これが単独なアプリケーションとして存在をしていて、「Google Classroom」というアプリケーションを使って、子ども達と先生の間で学習課題のやり取り、アンケートの回収、配布をして行きます。それらを効果的に活用する道具として、「Chromebook」といわれる、先程の端末機器が整備をされており、これらを全てひっくるめて、「Google for Education」という構成になっております。いろいろなアプリケーション、ソフトがありますので、使用して行く時に、アカウントが沢山、沢山作成されるようにもなります。今、業者の方で話しをしておりますのは、NECが用意をしております「教育クラウド」というものがあります。右側の雲の方に「Open Platform for Education」と書いてありますけれども、ここを使うことでアカウントを1元管理をして行くことができる。児童生徒も一回端末を立ち上げる時に、アカウントを入力すれば、そこの先にリンクされている学習支援ソフトや、学習ドリルや、「G Suite For Education」でいろいろなアプリケーションが、全て使うことができるよう提供していただけることを聞いております。その整備に向けて、現在のところですけども、10月から校舎内配線等の工事の下見に入って、ほぼどの学校も校舎内配線が終わって来ているところだと思います。後、アクセスポイントを付れたりHABを付れたりという二期工事に、入って行こうというところです。これからの予定ですが、2月にインターネット回線が各校に開通する予定です。その状況を見ながら、各校の整備状況、端末の様子を見ながら、13校今現在、小中学校がありますけども、その中で1校程度選んで、1週間程度パイロット展開をしたいと思います。1週間の試験運用をして、不具合があればそこで対応し、NECでまた修正していただくことを考えています。そこでGoサインが出たら、3月に各校に端末整備、各校毎の動作確認をし、3月中旬には、教職員向けの操作研修を実施したいと思っています。この操作研修ですが、NECが主体となりながら、「Google for Education」の研修、プレ研修とコア研修二つに分かれております。プレ研修は、オンラインで実施をして行く。これは全教職員にさせていただこうと思います。先生方のこれまで習得されてきた技能や知識に差がありますので、大体、よくご存じの先生は1時間程度、初めて対応されるような先生方は3時間くらいかかるかと思っています。これを受けた上で、推進役となる先生方にはコア研修ということで6時間、実際にパソコンを使いなが

ら、集合研修で実施したいと思います。それから授業で使う学習支援ソフト、学習の中に組み込んでいく学習ドリル、端末を使ってドリル学習をして行く、そういった研修をそれぞれ2時間から3時間程度するように今、考えて調整をしているところです。実際に、「G Suite For Education」の部分で、「Word」、「Excel」に近いもの、そういったものをやり取りをして行くことを、子ども達には少し早めに経験をしてもらいたいと思っています。それに合わせて、教職員もいづらか慣れて4月を迎えないと、ほんとに宝の持ち腐れのような状態になってしまうので、そうならないためにも、現在、芸北小学校、本地小学校、芸北中学校、大朝中学校の4校には、「G Suite」のアカウントを事前に作成をし、子ども達、教職員のアカウントを作り、先行的に「こんなことができるんじゃないか」ということを試験運用をさせていただいております。当初は、学校内のパソコンでそのアカウントを使って、作業をすることを考えていましたが、やはり家に持って帰って、「どんなことができるか」ということも検証をして行くということで、「持ち帰っての活用も可能ですよ。」ということで今、運用を進めていただいております。ただ、Wi-Fi等の環境の無い児童、生徒も一部いますので、そこにつきましては、「その子達が不利益を被らないように、ペーパーで代替をすとか、学校で作業を補習してください。」とお願いをしています。いきなり難しい対面での授業は、先生方にも負荷がかかったり、準備にかなり時間がかかるので、まずは、学級通信をClassroomというソフトを使って、「明日はこんな行事があるので、こういった持ち物持って来て下さい。」というメールの替わりのような感じで使うものであったり、道徳や実際、授業をした事後のアンケート評価を答えてもらう、というような「簡単どころからまずは取り組んで下さい。」とお願いしています。または、インターネット上のカレンダーを学校、学級毎で共有して、全校児童生徒が保護者も含めてそれを見ることができる、行事予定表的な使い方ができるということも1つではないかということで、『まずは、先生が慣れる』ことを前提にしながら進めていただいているところです。こういった使い方が、書籍も出てはいますが、これは他府県のものですが、既に埼玉県立総合教育センターや愛媛県総合教育センターでかなり詳細なマニュアルや実践事例も提供していただいています。「そういったものも活用しながら、進めて行って下さい。」という情報提供を各校にさせていただいているところです。11月に、先進校4校で実践事例の蓄積を今ずっと、進めていただいているところです。今後の見通しについて、校長研修会で話しをしております。今度、12月8日に町の校長研修会がありますので、4校の校長先生方に、「うちの学校ではこんな実践をしていますよ。」という実践発表をしていただこうと思います。それを聞いた上で、残るアカウントを作成していない9校は、各校に持ち帰って、学期末のPTAと保護者の方に「GIGAスクール構想に向けて、G Suiteのアカウントを作成をします。そのことに同意をして下さい。」ということの同意書の集約をしてもらおうと思います。一応アカウントを設定するとき、個人名と性別、何処の学校に所属しているということはインターネット上に登録することになりますので、そこに同意をしていただくということの同意書の集約をお願いをしています。年が明けて、その9校にも全てアカウントを配布をし、G Suiteの部分の活用は、先行的になっていくということです。NECが主体となった研修は、3月末には予定はされていますが、4校の先進校の事例での研修も含めて、1月に北広島町ICT活用研修と書いてありますが、1月18日と1月22日の2日設定です。広島県教育委員会の学校教育情報化推進課から2名の指導主事を招いて、「実際にこのように活用します。」という体験型の研修を午後半日、2日間開催をするようにしています。13校の日程もなかなか揃いませんので2日間、どちらか都合のいい方で参加をしていただくことにしています。合わせて、右側にWEBでの実践交流研修ということで、4日提示していますが、WEB会議システムを使って、「今、我が校はこ

こまで進んでいます。」と「こういう課題で困ってます。」というような実践交流研修を4回積み重ねながら、実は、ここには県の指導主事もWEBに参加をさせていただいて、情報のやり取りをしながら、ボトムアップを図って行きたいと思っています。そういった整備をした上で4月に端末整備とともに子ども達にしっかりと使ってもらえるような環境を整えて行きたいと現在考えて取り組んでいます。以上です。

(箕野町長)

説明は以上です。他にありませんか。

(池田教育長)

人のことも少し。今、細田から説明をしましたが、実はまだ端末もまだ無い状態ですし、実際に使ってもいない状態で、こうなるであろうという研修を仕組んでいます。4月から始めようと思ったから、簡単に言うと、各学校は車は買ったが運転手がない状態になっています。学校の先生方もICTの能力に凄く差があるので、そのままでもできる人が何人かはいるとは思いますが、そうは言っても授業で使うということになれば、実際にイメージとしたら、今、小学校で英語が始まりましたが、英語が始まったのでALTと言って、英語が話せる先生が学校を回っていますが、そういうかたちの人材を是非、配置していただきたいということを町長部局にお願いをして検討してもらっています。実際に、機械の使い方も分かるし、授業のやり方が分かる人でないと、接続や機械のノウハウだけでは、なかなかこのGIGAスクールは進まないということで、そういう方も是非とも数年間は必要ではないかと今、教育委員会の中で考えて町長部局にしっかりお願いしているところであります。

(箕野町長)

説明は以上ですが、皆さんから質問、ご意見等あればお願いします。

(畑田総務課長)

関連してFTTH化事業について、少しご説明させていただこうと思います。今、FTTH化事業ということで、各家庭に光ケーブルを引き込んで、特にインターネットの高度化高速化を図る事業をスタートしました。このGIGAスクール関係で言えば、持ち帰って家庭学習ということも視野に入れておりますので、家庭内で利用できる環境も整備できる基盤整備になると思っています。この事業ですが、来年4月くらいから全町へ光ファイバー回線を引く工事をスタートしますが、それが1年くらいかかる予定となっています。その後、各家庭へ光ケーブルを引き込んでいきますので、来年度の後半から随時、各家庭へ繋いで行くという状況になっていますので、これが全域に行き渡るのに、また更に1年くらいかかるのではと思っています。令和4年度内に全域に希望されるところに引き込みができればと思っています。少し長いスパンでの事業になりますが、GIGAスクールでの家庭学習の基盤になるかとは思っています。この整備後ですが、ただで使えるというわけではなく、引き込みにも宅内工事がかかりますし、使用する場合も使用料がかかりますので、そこら辺の負担はどうしても出てくるので、使用する全ての方が無料で利用できるということではないので、家庭学習のこととなると考えていかなければいけないかと思っています。

(箕野町長)

他には何かありませんか。

(菅川教育委員)

学校現場の中で一つ考えられることは、学習支援と事務の効率化です。家庭に帰ってしまうと入れないので、そうするとその中にアプリがある、それで全国の学校の先生方がいろんなソフトを作っておられる。例えば、小数点×小数点という単元を開けばそこへ入られる設定ができる。そういったこ

とが可能なかたちで蓄積できる場所があるかということと、それが個々の子どもが探さないといけないのかということと、でないとならば家庭学習をする時に、学校現場はどうするかということになります。例えばペーパーレスにするんか宿題を、そうすると家庭へ帰って、パソコン開いてその中でやってしまう。そうすることによって先生は朝来てそのパソコンを開けば、昨日の宿題がこの子とこの子がやっている、そうするとそれを授業の中でこの子とこの子とこの子の考え方をそのまま展開しておくか。そこで意見を交わした時にそうなれば、子ども達の意識というか、それぞれが書いたものをまた黒板に付けて書いたりせず、4人の子どもらがいつべんに出るのか、そういうソフトがあるはずですから、出るとそこでお互いが意見を言い合う。そうすると、その考え方が自分の考えたことがパソコンの中にあると書きませんよね、手で。それは何処へ残すかということです。自分が振り返ってみようとした時に使えないというのが、過去これをやって来て、一番困ったところです。それらをどうされるんかということと、そういう学習支援ソフトとしてのパソコンの使い方は無いのかということが、一つと、今の事務の効率化ということは、明らかに直ぐ分かることだから、先生方が荷物をいっぱい持って来なくても済むということもあるし、何処にいても事務ができるということであれば。ただ、私が思うのは、子ども達が学習支援をするという、その時に学校の授業の中でどう使うのかということと、あともう一つは家庭学習。宿題は全てパソコンの中にありますよと、ペーパーレスです。で、子ども達の荷物は軽い。でそれをやる。それが分からなかったら違うソフトへ入っていく。子ども達が。それは誰でも見られるようにしておけば入っていけると思うんですけど、そうして宿題をやってもらう。そのパソコンに保存することによって、先生が朝、行ってそれを開けば子ども達がやってきたことが見られる。そういう活用をされていくのかどうか、今の状態じゃこの学習支援というのは、大まかに括られて、見えない。だから今後どうなるのかなという、事務の効率化というのはもの凄くよく分かるから、これはもう凄くことだと思ったり、ただそこに入っていくかどうかという難しさもあるんかもしれないし。というところの学習支援というところでどういうふうにご検討されるかこの使い方が、どっちかと言えばパソコンありきできていると。学校現場はこうなんだよ。今、北広島町教育はこういうことで困っている、だからパソコンがいるという状況じゃ無いですか。今のコロナということがあったりして、その中であってパソコンが無いといけません。それはそれでいいとしても、そのところがはっきりしないと、4月からいろいろ苦労するんじゃないかなと、少し危惧していますが。これは私の考え過ぎかもしれませんが。ただ、凄くお金がかかる訳なんで、是非とも、子ども達にいい方向に働くように。

(箕野町長)

いかがですか。

(細田指導主事)

今、菅川委員さんおっしゃった、非常によく分かるところで。基本は書いて消すというアナログベースのところがあると思う。それをベースにしながらか、更にこのパソコンを使うことで効率的に授業を組み立てて行くことができるという方向に持って行かなければいけないと思います。やはり、パソコンが先に来ってしまうと、これは本末転倒な話になってしまうと思います。そういった効果的な活用の仕方を支援するため、学校にも指導することで、池田教育長がおっしゃった、そこを支援する者の配置をお願いしている段階です。それから、子ども達に課題を提示するところも、まず、今、先生方がWindowsベースで作られているデータは、ある程度、互換性を持たせたシステムの中で引き継いで行くことはできるかなと思っております。それから、そういった学習課題を子ども達に配布する時にも、Google Classroomというアプリケーションを使って、例えば、細田が担

任でしたら、自分のクラスの子のアカウントを入力して、学級を編成することができます。「細田の学級は、このメンバーですよ。」という学級を編成してその編成した子ども達に対して、「この課題はやって来てね。」ということでピンポイントで課題を渡すことができます。ですので子ども達が「どの課題だったけっ。」と自分で探しに行くことはありません。自分のアカウントで入った部屋にその学習課題が届いている。というやり取りでピンポイントでやり取りすることはできるかなと思います。

(箕野町長)

いいですか。

(菅川教育委員)

はい。

(箕野町長)

細かいところは、スタートしてみないと分からない部分はありますね。

(池田教育長)

今、細田が説明したこともありますし、実は、心配しないといけないことも、教育の世界では数年前、例えば全国学テが始まる、県のテストが始まった時に、直ぐにマスコミが先導して、「何処何処の市町はこういうことをしています。」「よくできています。」その品評会みたいになると思うんです。そういうことに走ってはいけないと思うし、やっぱり、必ずそういうことになると思うが、それに「そういうことじゃないよ。」ということ、保護者も地域のみなさんも学校もよく分かって、さっき細田が言ったことですが、全部この端末で勉強はできないと思います。県内のある教育長も言われましたが、「勉強はFace to Faceだ。」と。Face to Faceがあつて、その補助的機能として、これが使われて効率的な学習にならないといけないと思います。「これが4月から揃うから、学校の先生も何もいらなくなり全部できる。」ということは絶対にありませんから、それをうまく使うようにしっかり準備をして行かないといけないと思いますし、菅川委員が言われましたように、昔とは違って、最近はもの凄い良いソフトができております。あのコロナ禍の中でいろんな教育ソフトや、いろんな塾などが無料で出しておりますが、一度見てもらうと、よくできているものいっぱいあります。

(箕野町長)

他には。

(益田教育委員)

1人1台端末というのは、4月1日から実際に始めるという時に、基本的には、家に持ち帰ったりすることができるということですか。家で使う時にはWi-Fiの環境、これが必要ということで、それが無いところについては、ペーパーなどでフォローすることのようですが、現在のきたひろネットの回線で、例えば家でインターネットをしているお家であれば、使えると考えていいですか。(そうですね。) そういったデータがあつて、それで実際には使うということになるのでしょうか、この光ケーブルになると、容量も大きくなって、かなり、快適に動く環境にはなると思うのですが、今のきたひろネットのあの状態の中で、実際に端末が家でも使えるのかどうなのかということと、それから家で使える児童、生徒がどれぐらいの割合いるんだろうかと、使えない家庭が随分あるのではないかなというところ、心配されます。実際問題、配布するとなると、家で使えるか使えないかというのは子ども達にとったら大きいかなと。差が、その辺はかなりしっかりフォローしなくては行けない気がします。それから、具体的には、アカウントですか。(はい。) 先程名前や、中学や性別などが入るということだったのですが、子ども達が作るのではなくて、教育委員会で作って(そうです。)そ

れを配るということですよ。具体的にはどんなアカウントになるのですか。

(細田指導主事)

まず学校の校番があります。芸北小学校から始まり千代田中学校、豊平中学校13校ありますが、それを3桁でつけます。001・002、その後に、児童生徒の入学年度を持ってきます。001H27、そのことで芸北小学校の27年度の入学生だということが分かります。その後に、出席番号を持って来ます。001H2701、これが入るためのIDとなります。パスワードは、ランダムな英語、数字の入った8桁以上のパスワードで設定するよということ、業者の方と調整しています。

(益田教育委員)

パスワードは、こちらで指定するということではないのですか。

(細田指導主事)

パスワードも今、業者の方と話しをしているのは、こちらで最初に配って、変更できないようにしておいた方が、後々のセキュリティや色々な事象が起きたときにいいのではないかと聞いておりますのでそのような設定で行こうと。

(益田教育委員)

私もそうですが、パスワードを忘れてしまう。

(細田指導主事)

変えずにずっとそれで。

(箕野町長)

先程の言われた質問の答えを。

(細田指導主事)

まず、インターネット、現在きたひろネットの回線の速度ですが、課題のやり取り、WordやExcelなどの課題のやり取りやドリルを開いたり、不具合が起きる回線の容量というところでは、現在のきたひろネットは大丈夫かと思えます。時にビデオ会議システムできたひろネットを通じて学校ともやり取りをしています、画素が落ちたり、動きが悪いということはありませんができないことは無いと思えます。実際に各家庭にどのくらいインターネットを引かれているかというのは課長お願いします。

(植田学校教育課長)

この6月に調査をしたところ、約8割が何らかのかたちで接続できる環境があるという回答です。お父さんが持っておられるだけとか、お母さんが持っておられるだけとか、そこまでの細かなベースではないんですけども、お持ちのICT機器がスマートフォンが圧倒的に多かったのも、その子どもさんが持って帰った時に、使えるかどうかということについては、もう少し細かな分析が必要だと思います。今のきたひろネットの加入の状況ですが、小学校で72.2%、中学校で73%で、この中でインターネット加入率は、小学生が53.6、中学生が55.1。半分強です。きたひろネットでいうと加入率はそういう状況でまだ低いかなということ。

(箕野町長)

よろしいですか。

(長田教育委員)

運用とかソフトウェアというのは日進月歩変わって来ているので、これはどんどん付いて行くと思うのですが、学校数が13校と少ないので。指導者の件もリサーチしていい人がいればいいのですが、何処も欲しいわけだから、そこも努力すれば行けると思うんですが、やはり一番気に止めておかない

てはいけないのは、学校の格差が出て来るのではないかと思うのです。やはりトップの意識によって普及率が全然違った時に、今度はアナログと違うところがあるので、この格差というのは随分大きくなって来るのではないかと思う。先程、教育長も言われましたが、全部これでやるというのではなく、レベルを合わせて、各校の均一を計って、スタートして行くことが一番大事じゃないか、このような危惧が、もの凄く先生によっても、高度なソフトの考え方によっても、企業も、部署でもそうなんです。ですから、一番気にしないといけないところかなという感じがしました。

(池田教育長)

ソフトは、私も時々いろいろなものを見たり、少しずつ研究しているのですが、すごく進んでいます。今の時代、教材開発を自分でし、授業で使うなんてことはできません。あるものをしっかり使う時代だと思っています。それと、長田委員さんが言われたように、学校で格差を作ったらいけないと思いますので、そのためにも、できるだけ早いうちからしっかり研究をして、校務支援のシステムを新しくしたのですが、その際も全部の学校同じようにやったりですね、やっていますし、確かに言われたようにトップの意識で校務支援もしっかりやるところと、埋もれているところがありました。できるだけ揃えるようにしたり。それと、先程益田委員さんが言われたところのWi-Fi環境等の無い子ども達に、どのようなやり方をして行くかというのは、しっかりこれから考えて、ここも急いでやらないといけないと思っています。安芸太田町は、ポケットWi-Fiを使っているようですが、それも一つの方法かなと思っています。段々月額の使用料も安くなっているようなので、その辺も合わせて研究したり、取り組んで行きたいと思っています。びっくりするような教育改革ですから、今まで無かったようなことが、日本中がいつ頃に始まるわけですから、凄い品評会になってはいけないと思う不安はあります。

(益田教育委員)

ちょっと聞いてみますが、アプリは全部クラウド化するんですね。(はい。)校務支援もクラウド化してあるんですか。

(細田指導主事)

校務支援は、まだクラウド化はしておりません。

(益田教育委員)

してないんですか。(はい。)心配なのは成績処理や出欠とか諸々な、いわゆる個人情報ですよね。これが繋がってくると、セキュリティの問題がいろいろあるかなと思って。そのあたりは、心配します。実際にこれまでも学校で生徒のテストや、いろいろな教材とかなどを全部サーバーと一緒に入れているわけですよね。生徒がパソコンを使う時には、成績とか出欠とかそういうものは見れないようにはしているのですが、よほど気をつけないと、漏れたり、ということが無いでも無いと心配する。常に気をつけていかなければいけないところかなと思って。

(箕野町長)

校務システムとはまったく繋がっていないですね。(そうです。)どうかしないといけないものかも分からないですが。セキュリティの問題とか、今後の方向性みたいなのはあるんですか。

(池田教育長)

校務支援は、最近やり替えました。

(国吉学校総務係長)

そうですね、去年やり替えたばかりなので、5年間は現状でいくのかなというふうに思っています。

(箕野町長)

県内でせめて統一すればという話しはあるのですが、なかなかこれもできない。今から行政のシステム自体も、総務省も段々統一化していこうという話で、クラウド化になるだろうかと思いますけども、今はこの基幹業務は県内9市町共通でクラウド化してはおりますが、それがもっと大規模になっていくのではなからうかという感じはしております。校務支援も段々変わっていく可能性がある。その他何か。甲斐委員さん。

(甲斐教育委員)

インターネットがどんどん進んでいるので、どちらかと言うと私は長けてないので、家で子ども達がやっていっていることに付いて行って無かったり、先程もあったように、きたひろネットを引いていたのですが、娘が二人で使うとなんか遅くなるみたいで、「お姉ちゃん切ってや」「あんたが切りんさい」ということになって、とうとう、その容量を増やしたんです。そうすると月々の払いが凄く高くなって、学割とか、もし、あれば助かるなど。近くの子ども達が豊平小学校の近くに私は住んでいるので、徒歩通学なんですけれど、昔ながらのガキ大将というか、ランドセルを投げたり、雨が降っても傘を差さなかったりするんで、ランドセルの中にこの大事なものが入ると思うと絶対壊すなどと思って、耐久性とクッション性の高いカバーをですね、付けていただいたりするとありがたいなと思っています。先程もあったパスワードとかも子どもが勝手に変えてしまうと、親が入っていけなくなるので、これは管理されてた方がいいのかなと思います。是非、学割とかよろしくお願いします。

(箕野町長)

どうですか。

(池田教育長)

小学生がいろいろな道具を使い始める時は、必ず、壊したり落としたりします。ですから、おそらくこの端末もそういうことがあると思いますが、ある程度はしかたがないと思って、それをサポートしなくてはと思っています。壊れるから使わせないという時代じゃないので、できるだけ壊れない作りにはしてあるとは言いますが、水をこぼしたりするでしょう。でも、それは将来のために仕方無い部分かなと思っています。

(甲斐教育委員)

はい。ありがとうございます。

(箕野町長)

全部が全部ということではないが、保険適用は？

(植田学校教育課長)

ある程度のメンテナンス契約はさせてもらっているのですが、壊れないようにしてください。

(箕野町長)

それと学割。総務の方で何か考えはありますか。

(畑田総務課長)

これもまた答えが難しいのですが、新しい光化分は、民がやるのですが、出来る限りでは結構サービスの利用料的には安くなると思いますけど、学割をされているかというのはちょっと分からないんですが、インターネットだけを引くとか、いろいろな細かいサービスの内容があるので、一番今のところ、現状に合ったものを引いてもらえればと思います。

(植田学校教育課長)

今、きたひろネットでは4段階ありますが、調査で言えば、中の2つが多い状況です。今、きたひろネットが一番高速なラインが、今度入る一番下。

(箕野町長)

120メガ。一番高い。今度が一番下。

(植田学校教育課長)

だから、かなり使えるのではないかと考えています。料金的には今ぐらいで使えるのではと僕は思っているのですが。

(箕野町長)

スピードは速くなって金額、料金的にはちょっと安くなる。使い易くなるのではないかと考えます。

(池田教育長)

先月、このGIGAスクール関係の説明がある研修会に行って、東京都渋谷区の小学校は既にこれを入れていますが、1人1台ずつ持たせているのですが、でもやっぱり、東京都渋谷区というふうな環境にあっても、それぞれの家で100%Wi-Fi環境は無い。だそうです。そういう時代ですから、そこをこれから4月からどうやって行くかは、非常に大きな課題だと思っています。

(菅川教育委員)

何か出てもすぐ変わりますからね。

(長田教育委員)

変わりますよ。5Gとか、部品が間に合わないので、素材から作りかえすという、今までの半導体一つにしても今までの熱量じゃだめなので、新しい素材を。今、まさに変換期です。ずっと時間がかかるわけじゃないんで、また大きな変化が1年後に起きると思います。今流れがきています。

(箕野町長)

この世界、日進月歩なので(そうです)、ついていけません。ハイスピードで変わっていますね。

(長田教育委員)

でも、今の段階でこれだけ入っていかれるということはいいと思うので、スタートはいいことではないかと思っています。

(池田教育長)

町内の各学校も今、前向きに取り組んでくれていますので、その辺は大丈夫と。

(長田教育委員)

このChromebookも、一応スタンダードなんで、これを使っていますが。

(箕野町長)

その他ありませんか。一応状況報告のようなことではあったのですが、そういうかたちで進んでいくということで、ご理解をいただければと思います。

(畑田総務課長)

それでは、令和2年度の第1回の総合教育会議をこれで終了いたします。お疲れ様でした。

○閉会